

中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る検証報告(2021年1月)①

- 中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送については、昨年度の検証を踏まえた対策を講じつつ、実施した対策が想定どおり機能したか、住民や作業員等の安全が確保されたか、円滑に作業を実施できたか等を確認しながら実施している。
- 今回の検証では、昨年度の検証報告(2019年11月)以降に実施してきた輸送について、2019年度から2020年度にかけて輸送の増加傾向を踏まえ、2021年度の輸送に向けた輸送実施計画の更新に先立ち、これまで取り組んだ対策等について改めて輸送の基本原則に沿って検証を行い、有識者のご意見もいただいた上で報告を取りまとめた。

検証結果の総括

- 輸送の基本原則である①「安全かつ確実に輸送を実施すること」、②「短期間かつ円滑に輸送を実施すること」、③「国民及び関係機関の理解と協力の下、輸送を実施すること」の3つの観点で検証を行った。
- ①: 安全確保に向けたハード対策及びソフト対策を実施したことにより改善が図られてきているところだが、輸送車両や帰投車両による事故や故障等の事例が依然として発生しているため、道路交通対策や各受注者への水平展開等の対策を引き続き講じていくことが重要。
- ②: 輸送量増大に伴う影響を緩和することを目的として、輸送車両の仮置場からの出発時間調整や車両待機場の活用等が実施され、これらの取り組みを継続していくことが重要。
- ③: 輸送による放射線影響、生活環境への影響を確認し、周辺に大きな影響が無いことが確認され、これらの監視を継続していくことが重要。
- 今回の検証により、安全性を最優先とし輸送を進めていくため、必要な対策を抽出し輸送実施計画等に適時に反映させつつ、適切な対策を継続的に講じていくことが必要である。



- 今後も引き続き検証を行いつつ、必要な対策を実施しながら、安全性と確実性の確保を前提として効率的な輸送を進めていく。

中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送に係る検証報告(2021年1月)②

今後も継続が必要な主な対策

基本原則

①安全かつ確実に輸送を実施すること

- 整備された道路等を活用した輸送を行いつつ、新規の仮置場からの輸送については輸送ルートを中心に点検を行い、道路交通対策を適切に実施していく。
- これまでに発生した事故の教訓を踏まえて、運転者の教育・研修や運転者の適切な管理等を実施していく。
- 運転者の交通安全意識の向上に向けて、優良ドライバー表彰を実施していく。
- 輸送車両だけではなく帰投車両についても事故が発生しており、原因究明、再発防止対策を講じ、各受注者へ水平展開していく。
- 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に向けた対策を実施していく。
- 作業員の被ばく線量の情報を収集・分析し、適切に管理されていることを確認していく。

②短期間かつ円滑に輸送を実施すること

- 総合管理システムを用いた輸送対象物の全数管理や輸送車両の運行状況の監視といった輸送統括管理を行っていく。
- 出発時間調整を行い、輸送車両による一般車両への影響の緩和を図っていく。
- 車両待機場の活用により、受入・分別施設における滞留時間の短縮化を図っていく。

③国民及び関係機関の理解と協力の下、輸送を実施すること

- 汚染検査(スクリーニング)を行い、周辺への汚染拡大防止対策を講じていく。
- 輸送車両の通過による生活環境への影響を監視するため、放射線量率や騒音、振動、大気質の測定を実施し、輸送による環境への影響の低減に努めていく。
- 中間貯蔵施設への除去土壌等の輸送へのご理解とご協力を頂けるよう、さまざまな媒体を活用した情報発信を行い、事業への理解醸成を図っていく。